

4月19日に、6年生を対象に実施しました「令和4年度全国学力・学習状況調査」の結果をまとめました。本調査は、国語、算数、理科の3教科のテストと同時に、家庭での過ごし方や学習時間を問う調査も実施されており、生活習慣と学力との関係など、本校の子どもたちの状況をお伝えします。

総合結果(国語・算数・理科)

算数と理科は全国平均を上回りましたが、国語は全国平均を若干下回りました。しかし、どの教科も無回答率が低く、児童が問題に向き合い、最後まであきらめずに取り組もうとする姿勢が育まれていることが感じられます。

国語科より

全国平均と比べて特に正答率の高かった問題は、物語文において、「人物像や物語の全体像を具体的に想像する」問題や「表現の効果を考える」問題です。普段から、複数の叙述を結び付けたり、叙述や表現をもとにして豊かに想像しながら読んだりすることができている児童の成果が表れています。

一方で、「話し合いの場における言葉の使い方」に関する問題や「話の中心を捉える」問題の正答率が低くなっています。授業中設定される話し合い活動の中で、相手とのつながりをつくる言葉を適切に使ったり、目的を明確にしながら話し合いを進めたりすることが大切です。

算数科より

全体的によくできています。基本的な計算はもとより、「割合」や「比例」、「グラフ」など知識や技能を要する問題は、日頃の積み重ねがきちんとできている成果が正答率の高さとなって表れています。また、「プログラミング」に関する問題でも、きちんと理解していることが示されています。

一方、気になるところは、目的に合った数の処理のしかたの「考察」や、図形を構成する要素に着目し「判断」する問題において少し課題があります。問題を解く際に、自分の考えをしっかりともち、解決の道すじをノートに表したり、全体で交流したりして思考を深めることが大切です。

理科より

全体的によくできています。特に、問題解決に向けて解決に向かうまでの道すじを「構想」する問題や、情報を「分析」して「解釈」し自分の「考え」をもったり、実験方法の「改善」を図ったりすることが問われる問題では、高い正答率として表れています。日頃の授業の中で、問題意識をもって意欲的に取り組んでいることが示されています。

課題としては、「昆虫の体のつくり」や「メスシリンダーの正しい扱い方」など、以前に学習した理科的な知識を忘れていている傾向が見られます。既習事項を学びに生かすことが大切です。

全体を通した本校の成果と課題

本校では、「夢に向かって 自ら学び考えを深め 思いを伝え合える明親の子」という学校教育目標のもと、児童につけたい資質・能力を「主体性・探究力」及び「表現力・発信力」と設定し、保護者や地域の皆様の協力を得て、教職員一丸となって取組を進めています。

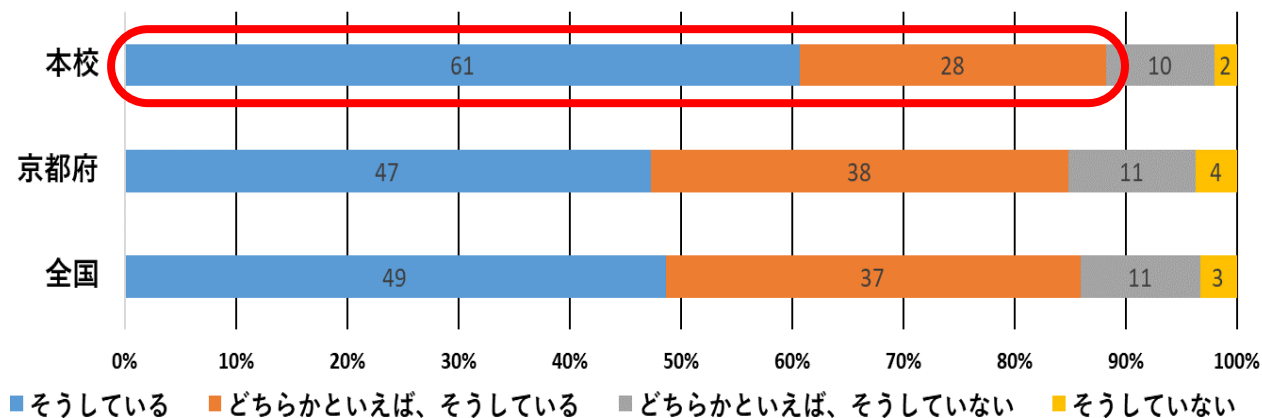
本校の子どもたちは、コツコツと学習に取り組む知識を深めるインプットは得意ですが、自分の思いを豊かに表したり誰かに伝えたりするアウトプットは苦手です。子どもたちにとって魅力的な学習を構築し、自ら問題解決に向かい主体的に学ぶ姿をイメージし、GIGA端末も積極的に活用しながら授業改善に取り組んでいます。

学習は、30分でも1時間でも自ら取り組むその積み重ねが大切です。意識して取り組んでいきたいものです。



児童質問紙調査から①

Q 算数の授業で公式やきまりを習う時、そのわけを理解するようにしていますか。

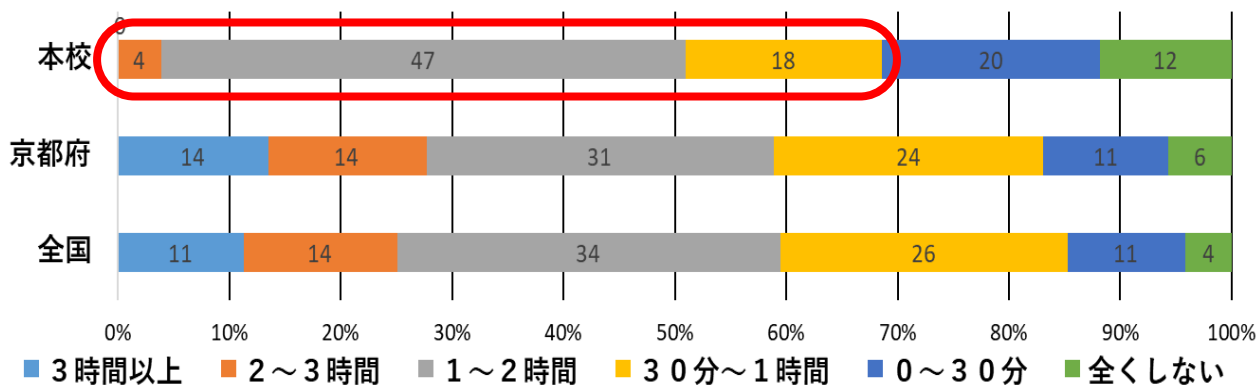


「算数の授業で公式やきまりを習う時、そのわけを理解するようにしている」児童は、「そうしている」と「どちらかといえば、そうしている」を合わせて89%おり、全国平均を上回っています。丸暗記ではなく、その意味まで理解し自身の学習に活用しようという高い意識が学びを支えています。



児童質問紙調査から②

Q 学校の授業時間以外に、普段（月～金）、1日あたりどれくらいの時間勉強をしていますか。（塾・家庭教師含む）



授業以外で、「1日1時間以上勉強する」と答えた子どもの割合は、全国平均より少なく、「30分未満」、「全くしない」と回答した児童の割合は全国平均より多く、家庭学習の実践に課題があります。中学校への進学に向けて、GIGA端末も活用しながら自主学習の意識を高めてほしいところです。

保護者の皆様へ

全国調査は、子どもたちの学習状況を知り、子どもたちの可能性をさらに伸ばしたり、課題を解決したりしていくためのものです。結果が学力の全てを表しているのではなく、順位を競うものでもありません。学力は、学校・家庭・地域での地道な積み重ねにより定着していくものです。引き続き、子どもたちの健やかな育ちと学びの環境づくりにご協力をお願いいたします。